

## 「食」と「いのち」の学びを 地域の子どもたちに



中央農業高校畜産科学科  
実習助手 前田俊之さん

中央農業高校は明治39年に創立された伝統ある県立の農業高校です。広大な敷地には、温室や水田、農園のほか牛舎・豚舎・鶏舎・実験棟などの施設があり、現在561人の生徒が「園芸科学科」「畜産科学科」「農業総合科」の各学科で学んでいます。

生徒主体で取り組んでいる「いのちをいただきます」は、県から2年間の「いのちの尊重に関する教育」の指定を受けて始めた講座です。その後も、「いのち」のテーマをそのまま引き継ぎ、養鶏部のプロジェクトとして地域の講座を生徒の企画・運営で行っています。7年目のことは「食 to 家畜 de 農体験」をテーマにアヒルを使った『中農アヒル米』の田植えや、栽培・収穫などで稻の成長を追っていきます。役割を果たしたアヒルは最終的に生徒の手でと畜されます。12月の最終講座では、栽培で使ったアヒルとは別の食肉鶏をと畜して試食をします。年間を通してこの講座の趣旨である「いのちをいただきながら生きている」ことをお子さんにも伝えたいと思っています。

海老名の子どもたちに講座を通じて「食」と「いのち」の尊さを学んでほしい。ぜひ一度学校に足を運んでください。



県立中央農業高校

中新田4-12-1 (231)5202



### 養鶏部

養鶏部は中央農業高校の課外活動「農業クラブ専門研究部」の一つで、現在24人の部員が所属しています。「にわとりプロジェクト」と「中農アヒルプロジェクト」に分かれて活動しています。アヒルプロジェクトでは水田に放したアヒルのヒナに除草や害虫の駆除をしてもらい、無農薬で米を栽培する「アヒル農法」を行っています。

養鶏部の『中農アヒル米』への取り組みは、昨年度の「あなたが選ぶ日本一おいしい米コンテスト」最優秀金賞をはじめ、「海老名文化輝き賞」を受賞するなど、その活動が評価されています。



夏休みにチャレンジ!

## 「食」と 「いのち」にふれよう

時 10時～12時  
**対 中学生**  
以下のお子さん(小学生  
以下は保護者同伴)  
月2日(火)から、参加者  
全員の氏名・住所・電話  
番号・学年・イベント名  
をファックスまたはメー  
ルで中央農業高校畜産  
科学科・前田(FAX231-  
1599 Emaeda-  
p2b@pen-kanagawa.  
ed.jp)へ

7/20(土)



田 程度(野菜代)

養鶏部の畑でエダマ  
メ・ナス・ピーマンなどの  
夏野菜を収穫します。  
**定 先着20人程度**  
**費 100円**

8/10(土)



学校で飼育する牛・豚・鶏が  
見学できるほか、アヒル・羊と  
ふれあえます。  
**定 先着40人程度**  
**費 無料**

7/14(日)



『中農卵』は、JAさがみ海老名グ  
リーンセンターでも販売

畜産科学科で生徒が飼育している鶏約600羽の  
鶏舎で卵を集め、選別・パック詰めまでを行います。  
**定 先着20人程度**  
**費 100円～140円程度(鶏卵代)**

中新田にある中央農業高校は農業を専門に学ぶ県立高校です。家畜や農業を身近に感じてもらうため、地域とのふれあいを大切にしています。夏休み期間のイベントを紹介します。

参加をお待ちして  
います!



8/3(土)

田植え後に放した手のひら  
サイズのアヒルのヒナは、田ん  
ぼの草や虫を食べて成長しま  
す。稻穂が顔を見せ始める前  
に、大きくなったアヒルを田ん  
ぼから飼育小屋に引っ越しさ  
せます。

田植え後に放した手のひら  
サイズのアヒルのヒナは、田ん  
ぼの草や虫を食べて成長しま  
す。稻穂が顔を見せ始める前  
に、大きくなったアヒルを田ん  
ぼから飼育小屋に引っ越しさ  
せます。

水田からアヒルの  
引っ越しをしよう

中央農業高校講座  
「いのちをいただきます」

中農卵の集卵・パック詰め体験

田植え後に放した手のひら  
サイズのアヒルのヒナは、田ん  
ぼの草や虫を食べて成長しま  
す。稻穂が顔を見せ始める前  
に、大きくなったアヒルを田ん  
ぼから飼育小屋に引っ越しさ  
せます。

田植え後に放した手のひら  
サイズのアヒルのヒナは、田ん  
ぼの草や虫を食べて成長しま  
す。稻穂が顔を見せ始める前  
に、大きくなったアヒルを田ん  
ぼから飼育小屋に引っ越しさ  
せます。